



おかむら通信 147号

平成 29年 7月号

梅雨明けも、間近になりました。私、院長、個人的なことです、ロータリークラブの会長を6月で辞し、晴れてフリーになりました。この責務の中、長いお休みを取ったり、急な休診が有ったりして、患者さんには大変ご迷惑をおかけいたしました。今後はまずそのようなことはないと思います。7月からは新しい任務ができました。松戸市医師会の監事に任命されました。いわゆるお目付け役のようです。人を諫めるとまた人間関係の擦れが生じるかもしれません。その時は温かい目で見守ってください。松戸市の医療のためです。

○今月の言葉

「幸せ」をつかむための極意です。「すべて身の回りに起きるできごとを受け入れる」ことです。なかなかできないことかもしれません。しかし1年間会長職を経験してわかりました。我慢したためのざわざわ感は引き継ぎ残りますが、組織の充実化や計画の達成とか、とにかく世界の方々とも心を通わせる事ができました。



○院長から 実践面において



①当院ペインクリニックにおいて、明るい話題が提供されました。

全身の疼痛がつらすぎて、眠れず、仕事もできず、食事も満足に取れない、と悲嘆にくれますよね。当院の工夫された治療法によって、少しでも長く安全に痛みを軽減することができそうです。

②痛みから解放されることによって、こころがより安定し、より余裕ができ、まったく無痛ではなくても、「すこしでも」希望が持てるようになるのではないのでしょうか。

③画像診断の工夫

現在 64列 supriaGrandeCT を使っていますが、放射線の量が少なく、画像もきれいなのですが、当院ではさらに画像を常に3方向以上から見て診断をしています。例えば肺がん病巣を見るのに水平・よこ・たての絵を作り、各病巣の広がり・病巣の区域性・諸臓器（気管、心臓、大動脈、脊椎、胸膜、横隔膜など）との関係を見て診断をし、国立ガン研究センターなどへ紹介しています。

④体格のよい方々と外来でお話ししているとき、私も病気の改善に困難性を感じてしまうのですが、どうにかならぬことはない、とも思えます。





大事なのは、少しずつ、ご自分の将来のために、より良い生活ができるように、一緒に勉強し、ほどほどに頑張ってください。

⑤まず他院にはないエラストグラフィは、腫瘍の悪性度を診断する装置です。当院は乳がんの疑いの検査には、すべて行っています。

⑥小児夜間急病センターに定期的に応援に行っています。小児の急患の治療に対し少しでも市内の小児科医の負担を軽減するためです。当院でも小児で点滴が必要な肺炎、脱水症、下痢症、熱中症等に対処しています。

⑦このところ、突発性難聴の方が大勢来院されています。発症後すぐの方が治りがよいのですが、だいぶ時間がたってしまった方も、ブロックの回数を増やすことにより、だんだんと回復してきます。

<過去において 滅亡する民族の共通点 トインビー より>

1 自国の歴史を忘れること 2 すべての価値を物やお金に置き換え心の価値を見失うこと 3 理想を失うこと みなさま、どうお考えですか？

○院長の仕事 (6月)

8/ (木) 松戸市立病院 午後3時

13/ (火) 松戸国際高校健診 昼

16/ (金) 松戸市医師会定例総会 夜 聖徳大学

17/ (土) 順天堂第一外科 純粹会 少人数の集まり 寄居

22/ (木) 午後 多文化共生フォーラム 松戸市国際交流協会主催 松戸劇場

夜、松戸中央RC家族移動例会 松戸商工会議所にて

29/ (木) 交換留学生 (ハワイ) JANA AIKO OGLU 送別会 八柱

30/ (金) がんフォーラム 千葉西総合病院アネックス 常盤平



今月の担当
青木です。

先月、上野動物園のジャイアントパンダ"リーリーとシンシンの間に赤ちゃんが生まれましたね。

シンシンが左手で笹や竹の葉をムシャムシャ食バながら右手でしっかり赤ちゃんを抱いている姿を見るととてもかわいいと思うと同時に、しっかりお母さんをしていると思いました。

今から赤ちゃんの夕前が何になるのか楽しみです。

